

発展する 科学技術情報サービス



特殊法人 日本科学技術情報センター 理事長
(前 科学技術事務次官)

しも ひら しょう ぞう
下 邨 昭 三

わが国は、今や、世界経済の中で大きな地位を占めるようになり、貿易摩擦や円高の渦中にある。科学技術の面でも、わが国の動向に世界の目が注がれており、国際社会への貢献が求められている。

政府は、昭和61年3月に「科学技術政策大綱」を閣議決定し、科学技術の振興が国の最重点施策の一つであることを明確化した。この中で、研究開発基盤の整備が大きくとりあげられており、科学技術情報の生産および流通の促進が柱となっている。

その中枢機関としての私ども日本科学技術情報センター (JICST) は、昭和32年の創立以来、内外の各分野にわたる科学技術関係雑誌、技術レポート等を幅広く収集し、整理、加工して関係各界に提供してきた。発足当初の手探りの時代からスタートし、機械化による省力化、能率化を心がけ、オンライン情報検索システム (JOIS) を開発して意欲的に事業を展開した結果、この10年間で事業規模は3倍に拡大した。

その主力商品である JOIS によって、お客様は、お手元の端末機 (パソコン等) から電話を介して JICST 本部 (東京) の中央コンピュータと会話 (文字による) をしながら、蓄積されているデータベースから必要な情報を選択して、極めて短時間のうちに自分の端末機上に打ち出すことが可能となった。

中央コンピュータには、JICST が世界52カ国から収集した文献に日本語の抄録を付したデータベース「JICST 科学技術文献ファイル」(累積収録件数約550万件)をはじめ、外国から導入した約20種の文献データベース等が収められている。これらの文献総件数は約3,000万件余に及び、理工学、医学、薬学等広い分野の基礎から応用までを網羅して全国の多くの方々にご利用いただいている。

こうして JICST は、国内における情報提供事業の実を上げてきたが、社会の情報化、国際化の進行につれて、海外から日本の科学技術情報にアクセスしたいという要望も次第に強くなってきた。

こうした折、JICST では、著名なデータベース作成・提供機関である米国のケミカル・アブストラクツ・サービス (CAS) と西独のフィッツ・カールスルーエ (FIZ-K) の三者で共同して構築した国際科学技術情報ネットワーク (STN-International) を通じて、昨年11月から国際的なオンラインサービスを開始した。

これによって、海外から、日本で発生した文献情報を英文化したデータベースに直接アクセスできるようになった。日本の研究者、技術者の発表した論文のタイトルや抄録が英文データベース化され、今や欧米各国で直接かつ即時に検索できる時代となったのである。一方、日本の利用者も、化学中心の CAS のデータベースおよびエネルギー・物理・数学中心の FIZ-K のデータベースから必要とする情報を手元の端末に取り出して利用することができ、研究開発の促進に大いに役立つものと期待している。

科学技術は、多岐にわたり専門化する一方で巨大化、総合化が求められ、諸技術の融合化が産業の発展の鍵を握るとされている。こうした時代の要請に応え、JICST では各種データベースをさらに拡充するとともに、多様化するニーズと急激な利用量の増加に対応するための新オンラインシステム・JOIS-III を昭和64年度にサービス開始すべく開発を進め、さらに、ファクトデータベースの充実を図ってまいります。より一層のご指導、ご支援を賜り、ご利用いただきますようお願い申し上げます。